木戸小　家庭学習の手びき

【学校と家庭を結ぶ学びの充実に向けて】

は じ め に

本校では「読み解く力」の育成や、その下支えとなる基礎的・基本的な知識および技能の充実・定着などに取り組みながら、「学ぶ力」の向上を図っています。とりわけ、基礎・基本の充実・定着については、子ども自らが学びに向かうよう、また、学校での子どもの学びが家庭へつながるよう、より効果的な指導を検討し、取り組みを進める必要があると考えています。

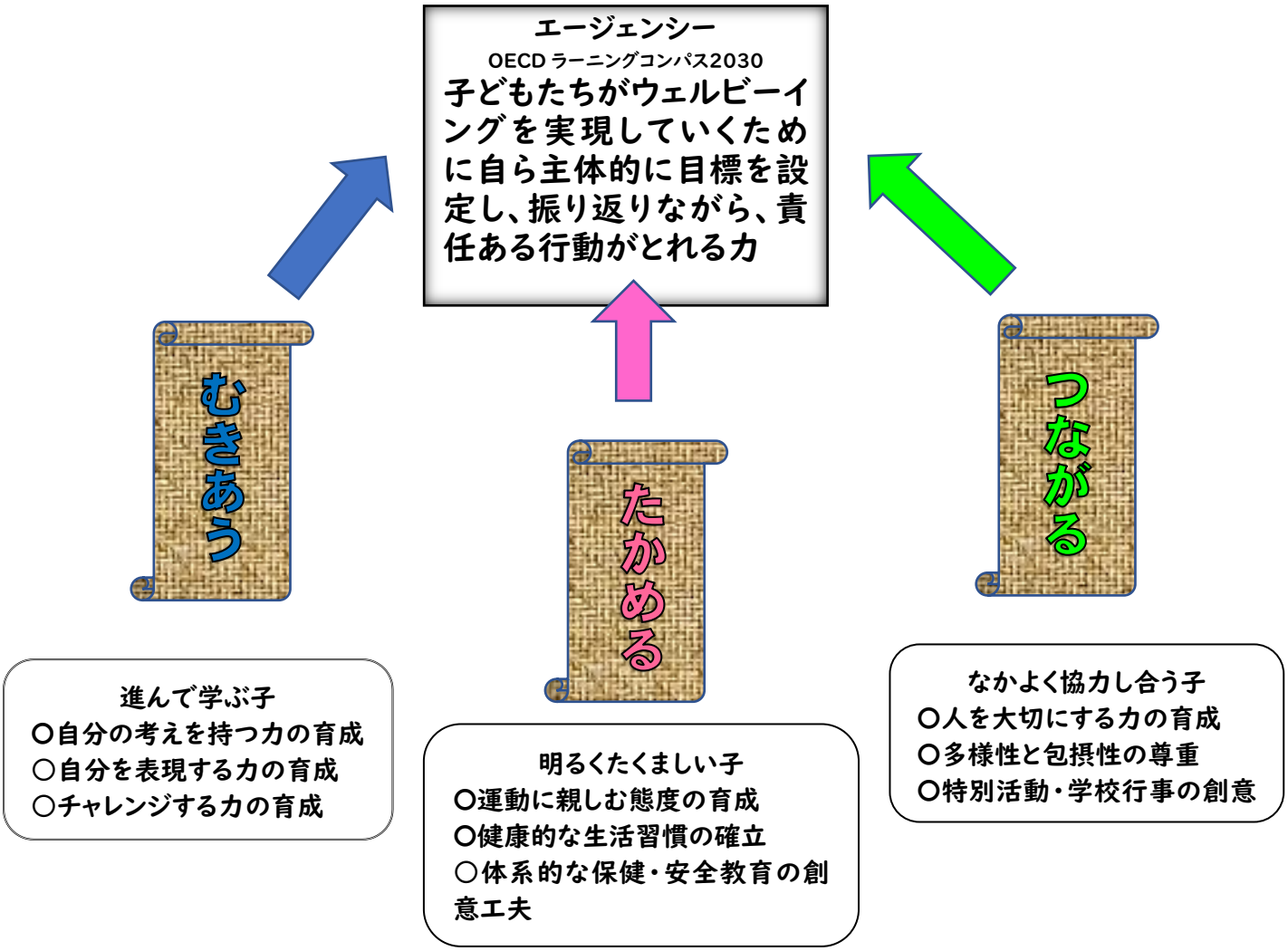
このことから、令和5年度より従来の家庭学習の手びきに【学校と家庭を結ぶ学びの充実に向けて】の視点を位置づけました。学校での学びを充実するとともに、その学びが定着するよう家庭をはじめとする学校以外の場所においても、家庭や地域の方々とのふれあいを大切にしながら、子ども自らが学びに向かえることを目指しています。

目 次

(1) 学校と家庭を結ぶ学びの充実にむけて
(2) 子どもの主体性を引き出す学校の取り組み
(3) 家庭・地域と連携する取り組み

(1)学校と家庭を結ぶ学びの充実にむけて

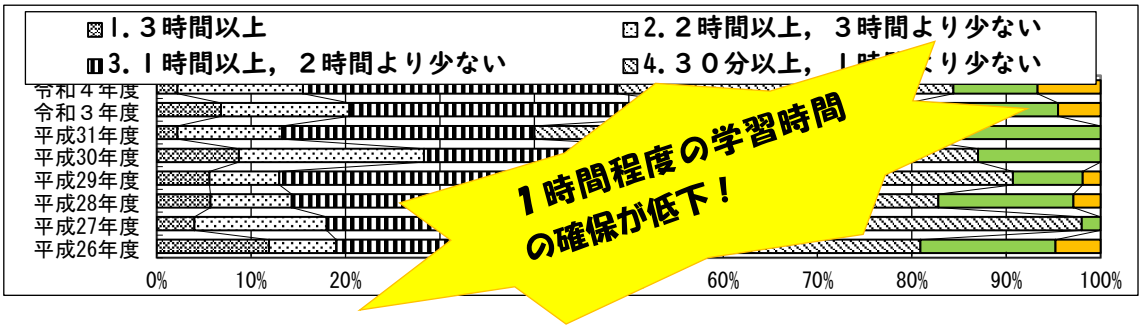
自ら学びに向かう子どもの育成をめざして



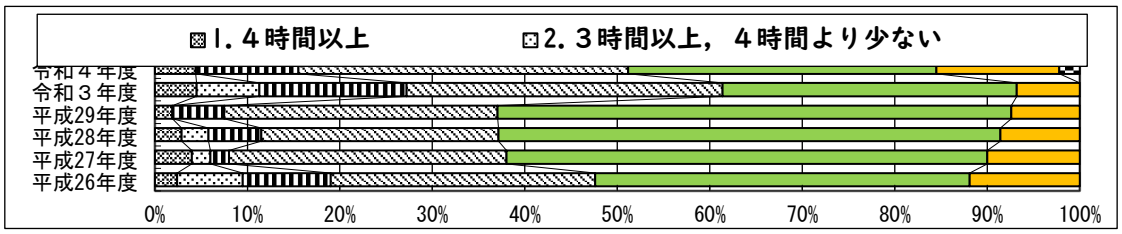
子どもたちが自分自身の将来に夢や目標を持ち、失敗を恐れず、いろいろなことにチャレンジし続けられる力を身に付けることは、本校のめざすところです。子どもの主体性を引き出し、学校における学習の効果を高めるうえで、家庭や地域との連携が有効であることがわかっています。学校外においても学ぶことの大切さや価値に気付き、自ら学びに向かう子どもを育成していきたいと考えています。

次のデータは、全国学習学力調査の質問紙より近年の本校の児童の状況の一部です。経年変化から、家庭学習や読書が短くなっている傾向があると言えます。子どもが自分の生活を見つめ直し、帰宅後の時間の使い方について調整できるようになることが、自ら学びに向かうきっかけになると考えています。

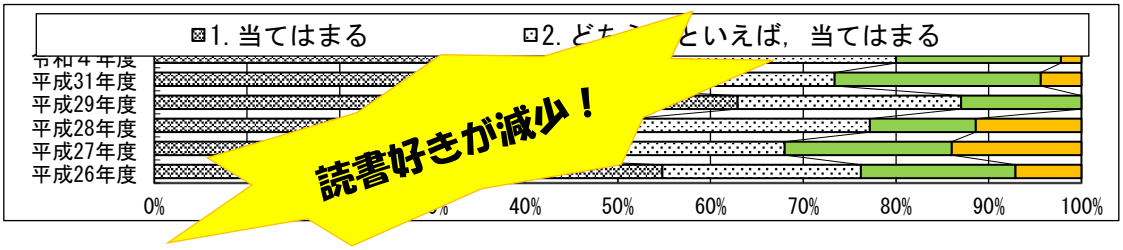
学校の授業時間以外（平日）に，１日当たりどれくらいの時間勉強をしますか？



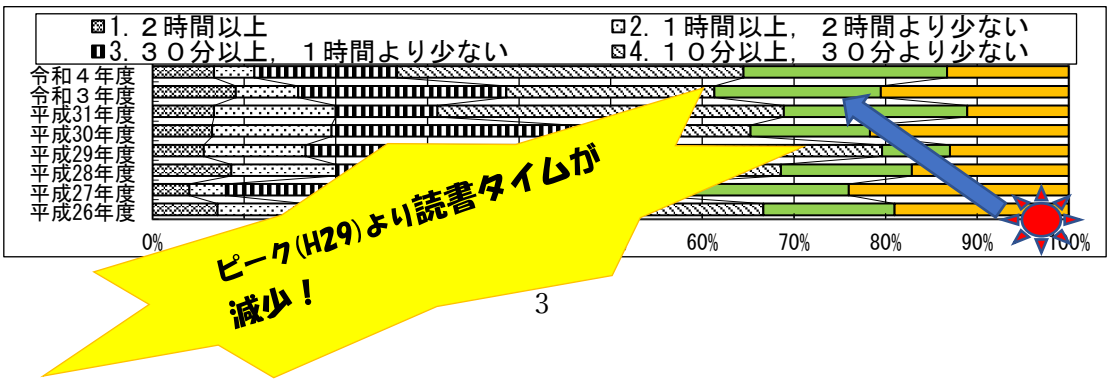
土曜日や日曜日など学校が休みの日に，１日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか？



読書は好きですか？

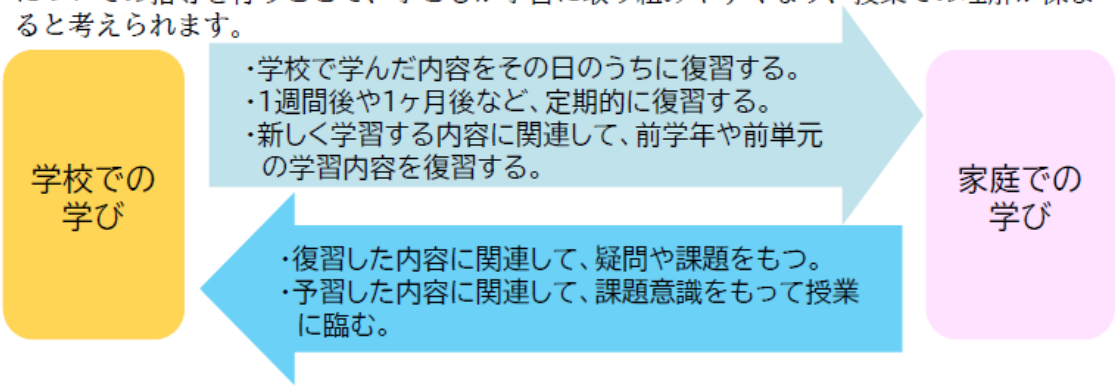


学校の授業時間以外に，普段（月曜日から金曜日），１日当たりどれくらいの時間，読書をしますか？



学校での学びの効果を高める家庭学習

学習したことが定着するためには、家庭学習の習慣付けを行うことが大切です。新しい単元に入る前にこれまでの学びを振り返らせ、関連する学習内容を確認することや、予習についての指導を行うことで、子どもが学習に取り組みやすくなり、授業での理解が深まると考えられます。



※予習は、過度なものにならないようポイントを絞った内容で。
（予習が定着すれば、反転学習の取組を検討することも考えられます。）

（２）子どもの主体性を引き出す学校の取り組み

子どもが自分で計画を立て、主体的に家庭学習に取り組むことができるようになるには、まず子ども自身が自分の興味・関心があることや、課題に気付けることが大切です。学校では、授業中や授業後の会話の中で、子どもの得意なことやがんばりを認め、一歩進めた課題やもう一度チャレンジするとよい問題などに取り組めるよう促します。

① 子どもが自分自身の興味・関心や課題に気付く

取組例

- 国旗に関心がある子どもに、その国の特徴について調べるように促す。
- 数学の授業で出てきた、友達の考え方を用いて、同じ問題を解いてみるよう促す。
- 学習したことと同じ考え方で解ける活用問題を出す。
- できるようになったことを、家族に見てもらったり聞いてもらったりするよう促す。

さらに一歩進めて

② 学習に向かう際の「なりたい自分の姿」をイメージする

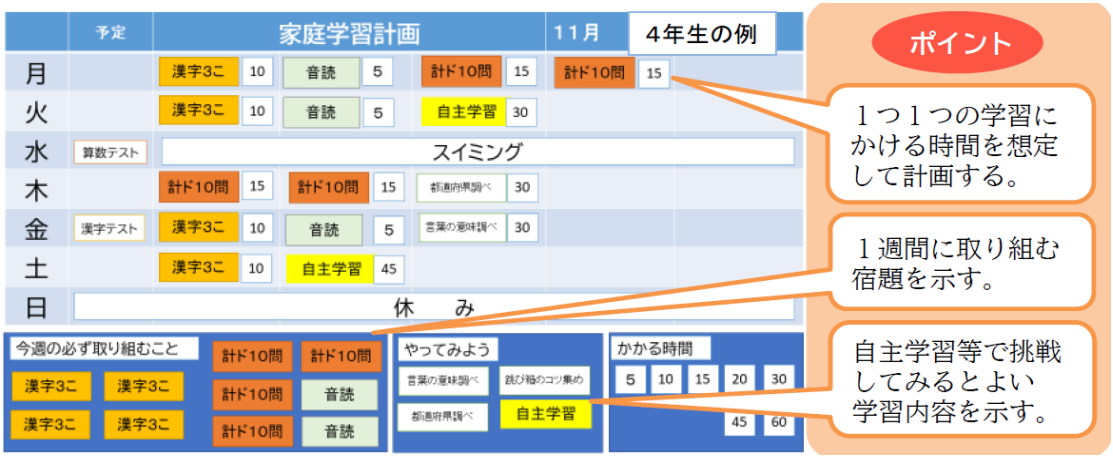
学習に対する興味・関心を持った子どもの学習意欲を高める支援の一つとして、子どもが「なりたい自分」をイメージする時間を設けることが考えられます。学校では、子どもとの対話などを通して、一人ひとりに応じたアドバイスができるよう心がけます。

【「なりたい自分の姿」例】
低学年　帰宅後、自分から進んで宿題に取り組めるようになりたい。
中学年　得意なこと・好きなことと宿題の両方ができるようになりたい。
高学年　得意なことだけでなく苦手なことを克服できるように計画的に取り組みたい。

さらに一歩進めて

③ 子どもが自分で学習計画を立てる

「なりたい自分」がイメージできるようになった子どもには、より具体的な目標が設定できるように、より具体的な目標が設定出来るように、放課後や家での時間の使い方を考えて、学習計画が立てられるようにアドバイスしていきます。

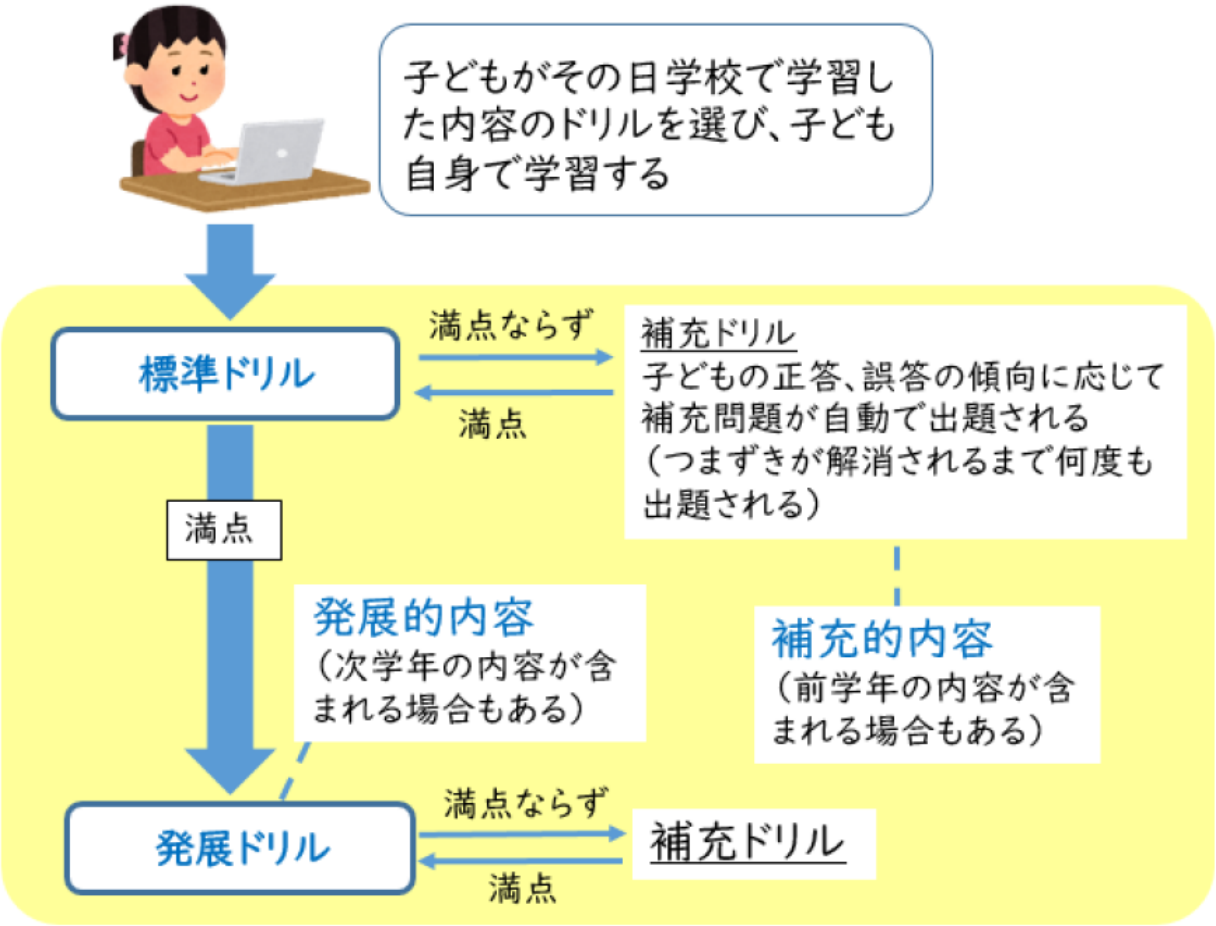


④ １人一台端末を活用する

１人一台端末のデジタル教材を活用することで、子どもがそれぞれの進度に応じて補充的・発展的な内容の学習に取り組むことができます。また、苦手なところを学び直すこともできます。

取組例　デジタルドリル教材の活用

子どもがデジタルドリルを活用して家庭での学習に取り組むイメージ



（３）家庭・地域と連携する取り組み

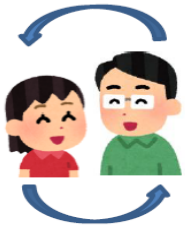
①学校での学びと家庭とをつなぐ

子どもたちが意欲的に取り組めるよう、ご家庭の協力をお願いする学習もあります。家族の方や地域の方と対話をしながら取り組める家庭学習を設定します。

取組例

ア　学んだことを「聞いてもらう」「見てもらう」

・家族をテーマにした俳句を作り、聞いてもらう（国語科）
・九九を正しく唱えられるか、聞いてもらう（算数科）
・歌や楽器の演奏を聴いてもらう（音楽科）
・描いた絵や作った工作を見てもらう（図画工作科・美術科）
・行事や校外学習での学びや出来事を聞いてもらう（特別活動）



イ　保護者から「意見をもらう」「教えてもらう」

・教材を読んだ感想を伝え合う（道徳科）
・小さい頃の自分についてインタビューする（生活科）
・昔の生活の様子についてインタビューする（社会科）
・仕事や家事に対する思いをインタビューする（総合）

ウ　保護者と「一緒に学ぶ」

・星座や月の観察を一緒にする（理科）
・ローマ字しりとりを一緒にする（国語科）
・一緒に買い物に行き、調理をする（家庭科・家庭分野）
・家族のために必要なものを一緒に作る（技術分野）
・一緒に体を動かす（体育科）
・デジタル教科書を使って会話の練習をする（外国語科）

②本に親しむ

本を手にすることで、新しい知識を身に付けたり、自分の考えや気持ちを相手に正しく伝える力を育んだりすることができます。子どもたちが本に親しむことができるよう、学校での読書の推進を行います。

取組例　校区で取り組む親子読書

○長期休業中、週末等に、家庭での読書時間を増やせるよう、親子で読書を楽しむ時間を設定する。

・親子で一緒に読書タイム
・親から子どもに読み聞かせ
・子どもから親に読み聞かせ
・子どもと親が交互に読みっこ
・親子で同じ本を読んで、感想の交流
・その他（親子でおすすめの本を紹介して読書など）

保護者が、選択できるようにすることで、家庭の実態や子どもの発達段階に応じて取り組めるようにする。

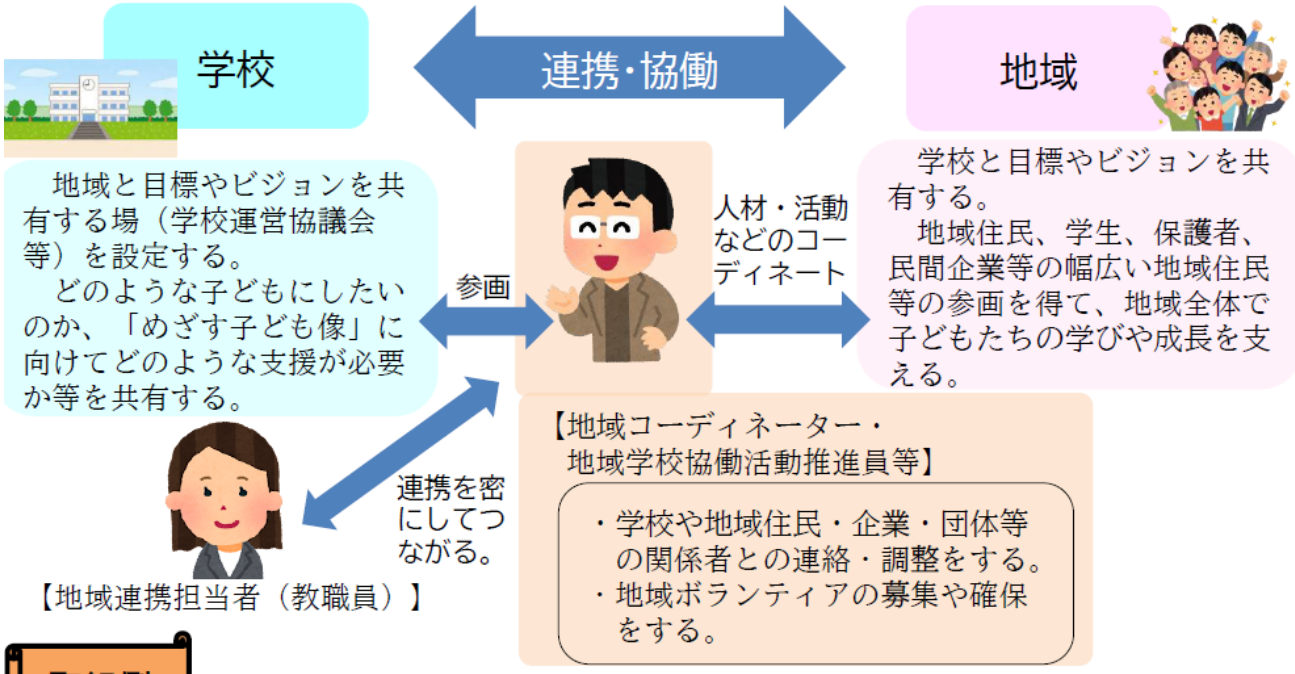
【多賀町幼小中「言の葉」連携教育より】

取組例　学校司書等との連携

〇地域ボランティア・学校司書等と連携して読書活動の活性化を図る。
「地域ボランティアとの連携」
・地域の読書ボランティアの方に開館業務や、貸出業務のサポートをお願いしたり、読み聞かせをお願いしたりする。
「授業で使える学校図書館」
・各学年の先生と学校司書との相談会を年度初めに設定し、学習のねらいに沿った図書資料の選定を依頼する。
「ビブリオバトルの実施」
・学校司書が主となって進め方等を作成し、全校でビブリオバトルに取り組む。※⑥

③地域と連携する

地域と学校が連携･協働しながら､地域全体で子どもたちの成長を支えると共に､学校区ごとの協議会などで､情報の共有を図ります。



取組例

◆地域課題解決型学習・郷土学習
「ふるさと」について地域住民から学び、自ら地域について調べたり発表したりする学習活動での協力を依頼する（例：総合的な学習の時間の一貫として）

1，2年生にはこんな働きかけを！

〇時間のきまりをつくりましょう。
〇「家庭で学習する」という習慣をつけましょう。
〇家庭学習をしている時は近くにいてやりましょう。
〇学校からのお便りをいっしょに確かめましょう。
〇学校でのできごとを聞いてやりましょう。
〇早寝・早起き・朝ご飯を心がけ、生活のリズムを整えてやりましょう。

3，4年生にはこんな働きかけを！

〇集中して取り組む経験をさせましょう。
〇やりとげたことに、「がんばったね」とほめてやりましょう。
〇学習をはじめる時間を子どもといっしょに決めましょう。
（テレビやゲームは家族で話し合って決めましょう）
〇学校からのお便りを家族に手渡す習慣をつけましょう。（置く場所を決めておきましょう）
〇早寝・早起き・朝ご飯を心がけ、生活のリズムを整えてやりましょう。

5，6年生にはこんな働きかけを！

〇子どもを認め、ちょっとした頑張りをほめ、自信がもてるような声かけをしましょう。
〇他の子と比べず、昨日のわが子と比べてほめましょう。
〇親子の語らいなどを通して信頼できる親子関係をつくりましょう。
〇自分に合った生活リズムをつくりましょう。（夕食前や早朝など、学習に取り組む時間帯を決めましょう）
〇早寝・早起き・朝ご飯を心がけ、生活のリズムを整えてやりましょう。

【参考・引用文書】

自ら学びに向かう子どもの育成を目指して
～学校と家庭を結ぶ学びの充実に向けて～

令和４年（２０２２年）１１月　初版

制作・発行 滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課

TEL:077-528-4660　FAX ： 077-528-4953